

頂へ！カナディアンロッキーの名峰3座登頂 8日間



カナディアンロッキーの山頂を目指すことの価値

カナディアンロッキーでの登山の魅力は、その壮大な自然と圧倒的なスケールにあります。標高3,000メートル級の山々が連なり、氷河やエメラルドグリーン湖、モミヤトウヒの針葉樹林の森が織りなす風景は、まさに別世界です。しかし、トレッキングで山頂まで登れる山は決して多くはありません。

カナディアンロッキーで「山頂を目指す登山ルート」が少ない主な理由は、自然保護の厳しさと地形的な困難さにあります。多くの地域が国立公園や保護区に指定されており、生態系や地形の保護



が最優先とされているため、登山道の整備は慎重に行われ、ルートは限られた範囲にとどまっています。また、冬の気候条件が厳しく、標高差が大きいことや、岩場・急斜面が多いこともあり、登山ルートを整備することの難しさも大きな理由となっています。

だからこそ、カナディアンロッキーでのピークハントには特別な価値があります。数が限られているからこそ、一つひとつのルートに深い意味と魅力が宿るのです。山頂に自分の足で立つことは、ロッキーの壮大な自然と一体となり、そのスケール感を全身で感じる、かけがえのない体験です。『頂へ！カナディアンロッキーの名峰3座登頂 8日間』のツアーでは、ロッキーで絶対に登るべき三座を厳選し、連泊型の行程にすることで、6泊7日でも無理なく登山が楽しめる理想的な旅程を作り上げました。

第一座：ヤムナスカ・クラウン(Yamnuska Crown)

マウント・ヤムナスカは、アルバータ州のボウ・バレー州立公園に位置する標高2,240メートルの山で、カナディアンロッキーの東端にそびえる象徴的な存在です。その独特な南向きの岩壁は、



登山者やクライマーにとって魅力的な目的地となっています。この山は、先住民族の間で「îyâ Mnathka(イヤ・ムナスカ)」として知られ、「平らな顔をした山」を意味します。その名前は山の特徴的な岩壁に由来し、また、「マウント・ジョン・ローリー」とも呼ばれ、先住民族と非先住民族の橋渡し役を務めたジョン・ローリー氏を称えています。

このマウント・ヤムナスカの稜線上にある標高2,037メートルの小ピークが、目的地であるヤムナスカ・クラウンです。東側から山を望むと、王冠のように見えることからその名が付けられました。登山口はキャンモアの町から車でアクセスでき、往復約9.5km、標高差約690mのコースです。トレイルは森林地帯から始まり、急峻な岩場やチムニー(岩に挟まれた狭い隙間)を通過して山頂に至ります。山頂からは、ロッキーの険しい山々と氷河が削った深い谷、広大なプレーリー(大平原)が会う劇的な景観が広がり、晴天時にはカルガリー方面まで見渡すことができます。断崖絶壁の山頂からの眺望はスリリングで、登山者に大きな達成感と感動を与えてくれることでしょう。



第二座:ハーリン・ピーク(Ha Ling Peak)

ハーリン・ピークは、キャンモアの南に位置する標高2,474メートルの山で、カナディアンロッキーの中でも特に人気のある登山スポットです。歴史的背景と登山の魅力が融合した特別な存在として、多くの登山者や観光客に親しまれています。



この山の名前は、1896年に初登頂を果たした中国系移民の料理人、ハー・リンに由来します。彼は、当時まだ小さな町であったキャンモアで働く炭鉱夫から「山頂まで10時間以内に登って戻るのには不可能だ」という賭けを受け、実際に約5時間半で登頂と下山を成し遂げました。しかし、その偉業を信じない人々も多かったこともあり、翌日に再び登頂し、大きな旗を山頂に掲げて成果を証明したという逸話が残されています。その後、山は「チャイナマンズ・ピーク」と呼ばれるようになりましたが、この名称が差別的であるとの指摘を受け、1997年に正式に「ハーリン・ピーク」と改名されました。この改名は、多文化共生と歴史的敬意を示す象徴的な出来事として評価されています。

登山口はキャンモアからスプレイ・レイクス・ロードを經由してアクセスでき、全長約7km、標高差約800mの往復コースです。2019年に大規模な整備が行われ、石段や手すりが設置され、安全性と環境保護が向上しました。道は急勾配ですが、技術的な難易度は低く、体力に自信のある初



心者から経験者まで幅広く楽しめます。山頂からは、谷間に佇む美しいキャンモアの町並みや、緩やかに流れるボウ川を眼下に望めます。周囲にはロッキーの険しい山々や氷河によって削られた深い谷が続き、360度のパノラマが登山者を圧倒します。アクセスの良さと絶景が両立するハーリン・ピークは、登山の達成感だけでなく、多文化的な歴史や自然の美しさを体感できる、特別な場所です。

第三座:フェアビューマウンテン(Fairview Mountain)



フェアビューマウンテンは、バンフ国立公園内、レイクルーズの南岸に位置する標高2,744mの山で、その名の通り「美しい眺望」を誇る名峰として知られています。1893年にアメリカの探検家ウォルター・ウィルコックスとサミュエル・アレンによって初登頂され、翌年、山頂からの絶景にちなんで命名されました。

険しい崖が特徴的でありながら、南側の斜面から登る登山道は良く整備されており、経験豊富なハイカーであれば比較的容易に登頂が可能です。登山道はレイクルーズのカヌー乗り場近くから始まり、サドルバック・パスを經由して山頂へと続きます。全行程は約9.4km、標高差は約1,000mですが、往復6時間程度で歩くことが可能です。

山頂からの景色はまさに旅のハイライトと呼べるもので、ターコイズブルーに輝くレイクルーズや、巨大な氷河を抱く高峰マウント・templやマウント・ヴィクトリア、さらにボウ・バレーやスコキー・バレー、アイスフィールド・パークウェイなど、バンフ国立公園の雄大な景観を一望することができ、言葉にできないほどの感動と達成感を与えてくれるはずです。



人気のリゾートタウンに3連泊ずつする体に優しい行程

キャンモアとバンフにそれぞれ3連泊する旅程には、休息を取りつつ三座登頂に挑戦できるだけでなく、それぞれの街の魅力をじっくりと堪能できる大きな価値があります。二つの町は近接しつつも個性が異なり、それぞれにしかない雰囲気を持っています。



キャンモアは、地元の暮らしに溶け込んだ落ち着いた雰囲気が魅力です。バンフに比べると人混みが少なく、静かに自然と向き合いながら「暮らすように過ごす」時間を楽しむことができます。

バンフは国立公園の中心地であり、ロッキー観光の象徴的な拠点です。町の中心であるバンフ・アベニューは多くの観光客で賑わい、美しい山岳風景に包まれた街並みを歩けば、ここが世界的なリゾートタウンであることに誰もが納得することでしょう。登頂の達成感と、ロッキー滞在のすべてをバランスよく体験できる旅、それが、このツアーの最大の魅力です。



カナダのツアーでは珍しい、日本からスタッフが同行するツアーです♪
ウエストジェット航空で行く、安心と快適のカナダ旅を一緒に楽しみませんか？

☀️ ウエストジェット航空利用のここがポイント！

成田～カルガリー直行便で、乗り継ぎ不要 

カナダ・アルバータ州の玄関口カルガリーまで、ウエストジェット航空なら成田から乗り継ぎなしの直行便。長時間のフライトも乗り換えストレスがなく、身体への負担が少ないので、ツアー初日から元気に行動できるのは、直行便だからこそ。

こだわりの機内食

✓ 地元・千葉県産の新鮮野菜を使用



✓ エコノミークラスでも満足のボリューム



✓ プレミアムエコノミークラスでもビジネスクラスと同じメニュー楽しめます



✓ ベジタリアン・グルテンフリーなど特別食の対応も充実(要事前予約)



✓ 容器の一部にサトウキビ素材を使用するなど、環境に配慮した取り組み